

網膜芽細胞腫の二次がんに関する国際研究

1. 研究の対象

1969年9月～2017年12月に当院で網膜芽細胞腫の治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

研究の目的は、網膜芽細胞腫の治療後に、どのような二次がんがいつ、どの頻度で生じるのかを調べることであり、また病歴、治療歴、網膜芽細胞腫の原因となるRB1遺伝子の変異の有無との関連を調べることです。これまで治療を受けられた方を対象に、今後長期間にわたり経過観察し、二次がんが発症した場合にその情報を集めます。二次がんの発症頻度は低く、より正確な情報を集めるため、世界の主な治療施設の情報を集め、解析を行います。情報は、IRiSCという網膜芽細胞腫と二次がんに関する国際研究グループが作る国際データベースへ情報提供します。研究実施期間は2018年から2042年までの25年間です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：生年月日、病歴、治療歴、遺伝性の情報、二次がんの情報等を、診療録から収集します。遺伝性の情報は、わが国では遺伝子検査が保険診療として行われていないため、両側発症もしくは家族歴があることをもって遺伝性があると判断します。

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、欧州の医学研究で使用されているファイル送信ソフトであるFileSenderを用いて、オランダのVUメディカルセンターへ送付されます。IDとパスワードで管理され、関係者以外は内容を見ることはできません。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

オランダ：VU大学メディカルセンター	Annette C. Moll
フィンランド：ヘルシンキ大学中央病院	Tero T. Kivelä
アメリカ：国立がん研究機関	Ruth Kleinerman
アメリカ：フィラデルフィア小児病院	Ann Leahey
アメリカ：スロンケタリング記念がん病院	David Abramson
カナダ：トロント小児病院	Brenda Gallie
アルゼンチン：JPガラハン病院	Guillermo Chantada
イギリス：バーミンガム大学	Manoj Parulekar

フランス：キュリー研究所	Isabella Aerts
ノルウェー：オスロ大学病院	Thomas Pedersen Baerland
イタリア：シエナ大学	Theodora Hadjistilianou
スウェーデン：ストックホルム聖エリック眼病院	Charlotta All-Ericsson
ドイツ：エッセン大学病院	Petra Temming
デンマーク：アルス大学	Jan Alsner
日本：国立がん研究センター中央病院	鈴木 茂伸

6. お問い合わせ先

照会先

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 眼腫瘍科 鈴木茂伸

電話：03-3542-2511

研究代表者：

オランダ：VU 大学メディカルセンター 眼科教授 Annette C. Moll